

最近、外国との文書の往復が頻繁になり、従来どおりその各々を印刷配布することは段々と無理になつて来て参りました。国際理論物理学会議組織委員会在京委員会第4回会合（昭和28年1月8日）で「往復文書を整理して、写を配布するものは各委員に必要と思われる文面だけとし、あとのものについては要旨を一覧表にまとめてお知らせする」ことに決定されましたのでその第1回分を

外	信	/
1953.1.8		

として同封の資料のうちに入れます。

今後は同様の往復通信一束を毎週1回在京委員会記事と同時に発行して行く予定でありますから御了承下さい。

外信	1
1953.1.8	

国際理論物理学会議に関する  
外国との往復通信一束

A. 米信

1. Bohr から

藤岡委員長あて。「自分の仕事の見通しがはっきりしないが、何とか繰り合せて出席したい」。

2. Osborn (米国海軍研究本部のNR) から。

会長あて「出席希望するが、旅費の見通がまだはっきりしない。自分のところにこの国際会議についての問合せを時々受ける。回答の処置については湯川博士に照会中であるが(照会の手紙の写同封)、同博士からの回答に接し次才、適当なところ(日本の中の適当な責任者を指す?)に回答するようにする。自分の受ける照会の主な事項としては『要請に基づいて提出される論文以外に、一般からの論文の提出を受け付けるかどうか』という点である。』

3. Fröhlich の秘書から

「講演題目について照会(配布資料1/1,2)を受けたが、Fröhlich が今渡米中なので、手紙は回送したが、返事は若干あくれるかも知らない。』

4. Mulliken から

「旅費は調達の見通が大体ついた。

講演題目は

1. Intermolecular charge-transfer forces.
2. Interactions between donors and acceptors  
とする。」

5. Green (無補助招請) から

「旅費調達の見込がないから参加出来ない」

6. Coulson, Mott, Peierls から

旅費調達の見通しについての問合せ（配布資料13）に対する返信。  
何れに。

「Royal Society に旅費を申請しているが、同協会では1月  
中にこの関係の事項を審議する会議を開くことになっているから  
それまでは確答出来ない。」

このうち Peierls は他に British Council にも申請を出して  
いるが、この方は3月から4月にならないと決定しない由。

B. 発 信

1. Kelly への招請状（配布資料121）
2. Vallarta（メキシコ国内委員長）への招請状（配布資料101-2-1）

これは各国々内委員会あての案内状（配布資料101）に対して、  
Vallarta から自分で参加を希望して来た（配布資料101-2）ので  
これはこの国内委員会からの正式推薦参加者と見做して招請するも  
の。（

記事
在京4

 項目5の(i)参照）

以 上